



中学生団員 11 名、各種交流団員 1 名、一般団員 1 名を中心とした三好市姉妹都市交流親善団 16 名が、10 月 6 日から 11 日までの 6 日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国ワシントン州タクイラ市を訪問しました。

タクイラ市はカナダとの国境近く、大都市シアトルから車で 30 分ほど南下した場所にあります。緑豊かな街並みが続き、巨大なショッピングモールやスポーツ施設が充実している商業都市です。「タクイラ」は「ヘーゼルナッツのはえる土地」というインディアンの言葉が由来で、その名前からも歴史を感じる事が出来ます。

今月より 2 回にわたって、団員たちが姉妹都市でどのような事を見て・聞いて・感じて来たのかを、ご紹介いたします。



タクイラに行ったことは、一生心に残ると思います

学校見学では、私たちと同級生くらいの生徒がたくさんいて、一緒にバレーボールやバスケットボールをして、話しかけてくれたことが、とても嬉しかったです。ホームステイ先の家族とお別れは、とても寂しかったです。不安だった私に笑顔で接してくださったり、いろんなお話をしてくださったりして、毎日楽しく過ごせました。タクイラは、学校の様子や、家の様子、お店や町の様子も日本とは全然違っていて、とてもいい経験になりました。姉妹都市交流親善団としてタクイラに行ったことは、いい思い出として一生心に残ると思います。

(中学生団員 伊丹佑華)

今回の派遣を活かし、英語力の幅を広げていきたい

私がこの派遣で一番印象に残ったことは、「優しさ」です。色々な場所に連れて行ってくれたり、日本では味わえないようなものを食べさせてくれたり、また、いつも笑いかけたり、また、数え切れないほど思い出をもらいました。それ

して何より、人々の中にあふれていた「気遣い」はとてもうれしかったです。今回行ってよかったなあと思えたのは、ALT の先生と少しづつ会話ができるようになったことです。出発前と帰国後とは、耳に入ってくる英語が全然違って、少しでも分かった時は、本当にうれしいです。これからもっと英語力の幅を広げていきたいです。

(中学生団員 大北夏輝)

自分も自分の周りも笑顔にできる人になりたい

私はタクイラで日本と違うところをいくつか発見しました。一つ目は、個性をすごく大切にしているところです。私たちが訪問した中学校はおよそ 20 か国もの国から生徒が集まる学校で、国の数だけ文化や習慣、言葉の違いがあるはずなのですが、それを感じさせないくらいの絆がありました。二つ目はとても堂々としていて、「自分」というものをしっかり持っていることです。三つ目は、みんなが笑顔だということです。日本に帰ってきたとき、日本人は笑顔が少ないなあと感じたほどです。

何にでも挑戦してみることが大切だと思いました

アメリカへ来て不安や心配もあったけれど、アミイさんやアンディさんがフォローしてくださって、とても楽しいホームステイとなりました。違う国や町に行っても積極的に話すことが大切だと思います。お互い言葉は違うけど、会話をしてみるとすごく楽しかったからです。それから何にでも挑戦してみることが大切だと思えました。違う国に行き、そこでしかできないことをやったり見たりすることができ、文化の違いを身を持って体験することができました。たくさんこのことを見て、学んで、楽しめたホームステイでした。

(中学生団員 橋本彩加)

家族の人たちに、感謝の気持ちを伝えたい

私がアメリカに行って一番こまかったことは言語の違いです。自分の伝えたいことを英語で伝えなければならぬので、感情表現することもできず困りました。そんな中、私たちがボランティアで手伝ってくれたシアトルに留学している女の子がいました。その人は英語をとてもりゆうちように話せて、私はその女の子をとてもちいと思えました。タクイラに行つてホス

ホストのあり方を学ばせていただきました

シアトル・タコマ空港に着き、タクイラの方たちから厚い歓迎を受けた時、やっとアメリカを肌感じました。この日から私はオードリー・デイヴィスの家族になったのです。オードリーの気遣い、心配りはすばらしく、ホストのあり方を学ばせていただきました。会話の出来ない私には出来るだけゆっくりと短く話しかけてくださり、とても有難かったです。英会話が出来ない事をのぞけば、何もかもに溶け込んでしまいました。感動の三日間。この機会を与えてくださった皆さん、お世話になったオードリー(別れがとてもちいだった)、みんなに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

(一般団員 三木晶江)

